

ひろっぱ8

www.chikamori.com

高知市大川筋一丁目 1-16

tel. 088-822-5231

発行 ● 2021年7月25日

発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 寺田文彦

Vol. 421
社会医療法人近森会



1956年(S31)当時の近森病院別館。現在は近森オルソリハビリ病院の場所で、左手の立派な塀は元香川ガラスの場所で現在は外来センターとなっている。

75th
anniversary
CHIKAMORI
1946~2021



◀ 創刊号表紙。主な記事に「本館増改築」「石川誠先生着任」「野村好直事務長、相談役に一後任に川添事務次長が昇格」

「ひろっぱ」創刊 35周年

毎号溢れる記事に 押しつぶされそうになりながら

「ひろっぱ」編集担当 和田 樹霖 (和田書房主宰)

「ひろっぱ」の創刊は1986年7月15日、近森病院40周年の年であった。当時は近森正幸理事長兼近森病院院長が20カ月ほど前に現職に就き、前管理部長の川添昇氏が事務長に就任したばかり、後の近森リハビリテーション病院初代院長の石川誠先生を虎ノ門病院分院から招聘した時期でもあった。

毎号のように建設記事

発刊については理事長の「創刊にあたって」に触れている。当時のころを少し振り返ってみたい。当時はこれまでの量的拡大から質的向上への変換期で、すでに創刊号1面に「本館の増改築始まる」とあるように、建設ラッシュが始まっていた。以来「ひろっぱ」には必ずといっていいほど「建設記事」が毎号のように掲載されていた。文字通り建設の槌音が響かない日はなかった。

創刊に至った経緯

当時、理事長秘書だった利岡幸さんから、理事長の意向を受けて「病院の新聞を出したい」という話があったのが最初であった。

創刊号の「編集室通信」にあるように、4月1日から月に一度以上のペースで編集企画会議を開いていた。編集長だった平野政夫先生には個人的に何度か打ち合わせをさせていた

だき、編集についての相談もさせていただいた。そうして3カ月半後、ようやく「ひろっぱ」を創刊する運びとなった。

以来35年、思い返しても信じられないほど途切れることなく発刊できたことに驚いている。近森会が毎月の記事に事欠くことがないほどに、ダイナミックに変革していた時期であったことも大きかったと思う。

特筆のこと

なによりも近森理事長の筆力には毎号のように驚かされた。毎月のように書かれていた「今月の言葉」はもちろんのこと、時に応じた医療の話や日曜市のシリーズなど、編集者は手の出しようがなかった。

「ひろっぱ」創刊から10年目の1996年の12月に「医療法人近森会50周年記念誌」が発行された。製作には1年ちょっとの月日を要したが、平野先生との編集のやりとりや「50年目の近森会」の写真すべてを撮影してくれた写真家古茂田不二氏との

仕事など、たいへんな作業ではあったが、これほど楽しい仕事はなかった。それも、自由に編集させてもらった近森理事長の本作りに対する姿勢に負うところが大きい。

感謝しきれない思い

ここまで続けてこられたのは、理事長を初め理事長、管理部長の両秘書や歴代の広報の皆さん、そして近森会の職員の「ひろっぱ」に対する愛情と協力があったからである。長年「ひろっぱ」の取材、編集に携わってくれた杉村雅子、小谷美紀、そして坂本美和の存在も大きい。

いくら感謝しても感謝しきれない思いで、いまいっぱいである。

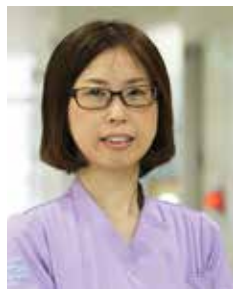
わだ しげなが



▲創刊号のニューフェイスに掲載された近森会顧問の北村先生とファミリー高知評議員の森下幸子氏

▶若々しい理事長「患者さん本位の医療はどうあるべきか」を語る





結果判定が1日からわずか10分へ ～抗菌薬適正使用への早期介入を～

近森病院臨床検査部
副技師長補佐 森本 瞳

微生物検査の技術革新

この度、細菌検査室に「マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析計：MALDI-TOF MS」を新規導入しました。

結果判定同定結果が約10分、血液培養陽性検体も約1時間で可能に

この装置は、迅速性と経済性を兼

ね備えた微生物検査の技術革新ともいえる同定装置で、県内での導入施設（検査センターは除く）は当院で2施設目です。微生物に由来するたんぱく質成分のマススペクトルパターンから、分離菌株の同定を行います。

導入によって、これまで結果判定に1日程度かかっていた同定結果が、わずか10分ほどで結果が得られ、血液培養陽性検体も陽性判定から約1時間で同定報告が可能となります。一般細菌だけでなく、嫌気性菌、酵母様真菌、糸状菌の同定も実施でき、この装置1台で臨床的に重



要なあらゆる菌種を取り扱うことができます。

感染診療への貢献を

また迅速性に優れているため、抗菌薬適正使用への早期介入、それに伴う入院期間の短縮、医療関連感染防止など、医療経済的にも大きな影響を与えることができる装置です。

この質量分析装置をフル活用し、感染症診療に少しでも貢献できるように努めていきたいと思っております。

もりもと ひとみ

8月の歳時記

朝顔

近森リハビリテーション病院
6階病棟西
介護福祉士
筒井 桃子



朝顔の花言葉は「愛情」「結束」。朝顔は花の色により、花言葉も変わってきます。白色は「あふれる愛情」「固い絆」。青色は「短い愛」「儂い恋」。紫色は「冷静」だそうです。

朝顔を見ると、暑い夏の日、子どもたちが朝顔の鉢を一生懸命抱えて持って帰ってくる姿を思い出します。

つつい ももこ



▼ターゲットスライドにコロニーを塗布しマトリックス試薬と混合させる



▶機械の中でパルスレーザー光により菌のたんぱく質をイオン化させ質量を算出



● 近森看護学校通信 56 ●

新型コロナウイルスワクチン接種

近森病院附属看護学校 専任教員 小野 五月

高知県内では5月下旬から新型コロナウイルスの感染「第4波」が到来し、6月に入っても断続的に2桁の感染者数が発生しています。そのような中、6月4日、25日と本校の学生2年生、3年生が新型コロナウイルスのワクチン接種を終えました。1年生も1回目を接種済みです。ワクチン接種を受けることで感染リス

クを減らし、重症化を予防するという目的を学生ひとり一人が認識し、今後も「感染をしない、させない」という意識を持ち、これまで以上に感染対策を徹底していきたいと感じています。

1日も早いコロナ収束の時を願うばかりです。

おの さつき



感染症診療・感染対策専門医療従事者の 派遣事業を始めました。



多くの新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ施設がありますが、全ての施設に、感染症に精通したスタッフがいるわけではありません。リスクや不安を抱えたまま診療を行うことをなくすため、そういった現場へ出向き、感染症診療レベルの向上や、診療が行える環境を広げることを目的にしています。

近森病院 呼吸器内科・感染症内科

部長 石田 正之

感染症に精通したスタッフの不足

SARS-CoV-2 の出現により、感染症に精通した医療従事者の重要性が増えています。しかしながら感染症専門医の数を例にすると、日本の専門医数はわずか 1622 名（2021 年 6 月 7 日現在）で、実際に診療に従事している人数はもっと少ないのが現状です。

県内には多くの新型コロナウイルス受け入れ施設がありますが、残念ながら全ての施設に感染症に精通したスタッフがいるわけではありません。その様な施設では、試行錯誤を重ねながら、自らの感染のリスクに不安を抱えたまま診療に当たっている、という現場の声を少なからず伺います。

不安を抱えながらの診療

また当院は重症者を受け入れる施設として診療を行っておりますが、軽症者や中等症 I までを受け入れて、重症患者の診療を行っていない施設では、重症施設へ引き継ぎを行う際に、「どのタイミングが適切なのか?」「どこまで治療介入をして引き継ぐべきか?」「送る前の対応はこれで良かったのか?」など多くの質問を受けます。

現在感染者の大きな波が収まってはいるものの、新規感染者数の下げ止まりや、変異株の問題など、まだまだ油断できない状況が続いています。今後次の波が押し寄せてきたときに、今回同様、もしくはそれ以上

になった場合、現在の状況だけでは対応ができなくなる可能性も否定はできず、受け入れ病床の拡充なども必要になるかもしれません。

必要な場所へ必要な人材を派遣

このような背景から、私自身は以前から、感染症に精通したスタッフが、自身の病院だけの診療にとどまるのではなく、コロナ診療に不安を抱えている施設や、これから受け入れようとしている施設の現場に出向いて、診療や感染予防対策などを行い、地域の感染症診療レベルの向上

や、感染症診療を行える環境の裾野を広げる事が重要ではないかと考えておりました。

県全体のレベル向上を目指して

そのような中、今回くぼかわ病院の杉本先生から依頼を頂きまして、このような試みを開始することが叶いました。まだまだ始まったばかりではありますが、今後さらに拡充をし、将来的には県全体の感染症診療レベルの向上を図りたいと考えています。

いしだ まさゆき

くぼかわ病院でのコロナ対策

医療法人川村会 くぼかわ病院
副院長 兼 総合診療科 杉本 和彦 先生



近森病院からくぼかわ病院に移籍して、喫緊の課題は、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れでした。

ゾーニング、対応スタッフ、マニュアル等、十分には整備できておらず、とても安全に受け入れられる状況ではありませんでした。試行錯誤する中で、以前より相談に乗っていただいていた、感染症専門医であり呼吸器科専門医でもある石田先生を派遣いただくことを、近森理事長にご相談し、快諾いただきました。

軽症患者の受け入れをスタートさせましたが、今後は高次施設へ引き継ぐ間も、中等症患者に治療介入できる体制を、ご指導いただきたいと思っています。

そして、当面は新型コロナウイルス感染症対応になると思いますが、将来的には、感染制御全般について、メディカルスタッフの連携・指導もお願いしたいところです。

すぎもと かずひこ

臨床と研究の両立



掲載・論文

Circulation Reports. 2021; 3(5): 273-278, The Japanese Circulation Society(Tokyo, Japan)

「Importance of Paroxysmal Atrial Fibrillation and Sex Differences in the Prevention of Embolic Stroke in Hypertrophic Cardiomyopathy」



近森病院 循環器内科 小松 洵也

初めての full paper が『Circulation Reports』に掲載されました。

肥大型心筋症の患者では、心房細動の合併とそれによる血栓塞栓症が

以前より大きな問題でした。今回、当院で加療した心房細動を有する肥大型心筋症患者を対象として後ろ向き研究を行い、脳塞栓症の頻度、男

女による違い、早期抗凝固療法の重要性について記載しました。

当院循環器内科は症例数が豊富で、私のような若手医師にとって多くの臨床経験を積むことができる絶好の場です。緊急入院も多く、集中治療室の重症患者への治療、多くの検査・治療などで、1日があっという間に終わることも日常茶飯事です。深みのある臨床医になれるように、学術的研究を行うことも重要と考え日々研鑽を積んでいます。「研究のための研究」にならないよう、目の前の患者さんに還元できる研究を続けていきたいと考えています。

今回、土居義典先生に多大なご指導をいただきました。まだまだ未熟者ですが、自分自身の成長だけではなく、将来的には臨床・研究を両立させた後進の育成にも力をいれ、高知の近森病院を世界に発信していきたいです。

こまつ じゅんや

英文原著論文発表によせて

学術担当顧問

心筋症研究所所長 土居 義典



研究成果の学会での発表は、たとえそれが国際学会であっても、山登りに例えれば3合目です。さらに努力して世界の共通言語である英語で論文として情報発信ができれば8合目、その情報が世界の臨床医や研究者に共有され、患者さんのより良い診断・治療に役立って初めて頂上到達です。

これまで、若手医師や研修医が世界のトップクラスの学会で発表する機会を作ってきましたが、今回、小松君は2020年3月の American College

of Cardiology の年次学術集会（採択率25%程度）での発表後、忙しい毎日の診療の中で、頑張ってデータを詳細に検討し直して、見事に英文原著論文として日本循環器学会の学会誌に発表することができました。

臨床も研究も常に世界レベルを目指して、これからも着実に努力をかさね、さらなる高みを極めることを期待しています。

どい よしのり

ありがとうございました



株式会社 スウィーツ様より、再びお菓子を頂きました！（昨年の7月にも頂いています）

「田野屋塩二郎プチシューラスク」、「足摺黄金糖ぷちしゅーらすく」、ありがとうございました。



父の日サプライズ



7月号に掲載された看護学校2年生萩原修平さんからのサプライズ記事にびっくり！言葉もない萩原師長。ご協力ありがとうございました。

お知らせ

近森病院附属看護学校

OPEN
CAMPUS

2021 8/22日 11/7日 2022 3/26日

詳細はホームページをご覧ください

お問合せ **088-871-7582**
受付 9:00~17:00 平日のみ

憧れへの挑戦



職員限定

第4回
近森会グループ学術集会
日時:2021年8月14日(土)AM
場所:管理棟3階会議室

みなさまのご参加をお待ちしております!

近森会グループ雑誌vol.03
も完成しました!

職員限定にはなりますが
ほしい方は事務局まで
ご連絡ください。

乞! 熱烈応援

Cool Head, but Warm Heart

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション科
科長 青山 圭

「患者さんの気持ちに寄り添いながら、しっかりとした医学的知識と判断を元に治療を行う」恩師の一人に教わり大切にしている言葉です。まだまだリハ医局や近森病院の先生方に助けていただいておりますが、今後さらに精進して参ります。特に嚥下障害の診療では自身の診療の質向上、多職種チームでより良い介入をめざしお役に立てるよう頑張ります。個人的目標ではお酒も減らせるように頑張りたいです。 あおやま けい

初心を忘れず

診療支援部
電子カルテ管理課
主任 松村 稔

近森病院で勤務させていただき7年目になりました。

前職でも7年間近森病院の医事システムの保守をしておりました。当時長山課長に声を掛けてもらい近森病院に入職させていただき今があります。

ちょっとした事でも声かけができる、気遣いができる人になれるよう初心を忘れず日々精進したいと思えます。

まつむら みのる

リレー エッセイ

ステイホーム継続中

四国管財株式会社

近森病院 内科クラーク 高橋 由美子さん

バカンスの夏の季節を迎えました。通常ならどこへ出かけようかとワクワクするところですがコロナの影響でなかなか思うように外出できない日々が続いています。皆さまどのようにお過ごしでしょうか?以前はレンタルしていましたが現在はアマゾンプライムのおかげで外出せずとも映画、ドラマなど見放題!(1年に1度の支払いのためほぼ無料と錯覚)。英語圏の映画、ドラマを主に観ていた時期を経ての遅ればせながら韓流ドラマにはまっています。2003年に冬ソナ、ヨン様ブームになった頃はスルーしてたのに…。

調べてみるとどうやら今は第4次

韓流ブームだそうです。知らぬ間に3回もきてたらしい。国の事情やシステムなど知らない事も多く「どゆ事?」という場面もありつつも面白くて退屈する事なくステイホームを過ごしています。むしろ時間が足りないくらい。

さらにそれ以上に夢中といえバ BTS! みてもみても見飽きず聞いて



も聞いても聞き飽きる事がない魅力しかないあの7人は何なのでしょう。スマートフォンという最強アイテムで色んな情報をエンドレスに楽しめています。バンタンサンデー!

ということで特に趣味も特技もない私ですがそれなりに多忙で充実しております。とはいえやはり以前のように旅行に行ったり、飲みに行ったり自由に過ごせる日々が待ち遠しい。きっともうすぐであろうその日まで、皆さま、お互い元気に乗り越えましょう。

たかはし ゆみこ



二つの学会で受賞

近森病院 初期研修医 小林 海里

第116回／第118回日本循環器学会中国・四国合同地方会
研修医奨励賞「右室梗塞を合併した Kounis 症候群の一例」

第126回日本消化器内視鏡学会四国支部例会 研修医・専
修医優秀演題賞「ESD にて切除し得た食道偽憩室症に合併
した食道顆粒細胞腫の一例」

この度、日本循環器学会地方会で
研修医奨励賞を頂くことができました。
私自身初めての学会発表かつ
Web 開催であり、緊張もしましたが
指導医の西村先生や、その他ご指導
頂きました先生方のおかげで、研修
医奨励賞を頂き、大変光栄です。

また、日本消化器内視鏡学会支部
例会にて、研修医・専修医優秀演題



賞を頂きました。こちらは
現地開催され、Web で
の開催とは違った緊張の
中での発表となりました。
ご指導頂きました岡田先生
を始め、消化



器内科の先生方には大変お世話になり、感謝申し上げます。

いずれの発表も大変貴重な経験となり、同時にこういった光栄な賞を頂きて身が引き締まる思いです。この経験を生かして日々の臨床にもこれから一層励みたいと思っています。

こばやし かいり

IMPELLA の可能性



近森病院 初期研修医
黒川 夢彦

第116回／第118回日本循環器学会中国・四国合同地方会 研修医奨励賞
「急性心筋梗塞に合併した心室中隔穿孔に対し IMPELLA を用いて循環管理を行った2症例」

この度、上記の学会において、心
室中隔穿孔という致命的疾患への
IMPELLA による循環管理の有用性につ
いて発表し、研修医奨励賞を受賞
させていただきました。菅根先生を
はじめ、ご協力下さった皆さんには
感謝の限りです。

当院での研修も半分が過ぎましたが、研修生活の証として一つ形に残すことができ嬉しく思います。残りの研修もこの IMPELLA のように元気よく声出して精進していきますので、何卒宜しくお願いします。

くろかわ ゆめひこ

日本看護協会から 看護人事部 尾崎貴美部長に表彰状

6月9日、日本看護協会から協会の発展に貢献されたとして、表彰状と記念のバッジが贈られました。尾崎部長は、高知県看護協会 看護師職能理事や、過去に日本消化器内視鏡技師学会の大会長を務めるなど、多岐に渡り活躍されています。



▲看護の象徴とされている「ランプ」をデザインした記念バッジ

朝の元気なあいさつで、 気持ち良いスタートを



患者サービス向上ワーキンググループはより良い職場風土づくりを目指し、活動しています。今年度は定期的に朝のあいさつ活動を行う予定で、4月に続き7月21(水)に2回目の朝のあいさつ運動を行いました。沢山の皆さんのあいさつで、スタッフ自身も元気になりました！



薬剤部持参薬と在庫管理

業務の効率化を図り、 人でないとできない仕事を充実させる

薬剤部 部長 筒井 由佳



持参薬管理

薬剤部では持参薬（患者さんが入院時に持参される薬剤）やお薬手帳、お薬説明書などをもとに患者さんの入院前の治療薬を確認し、鑑別報告書にまとめ、医師や他職種に情報提供しています。今回、お薬手帳の内容をスキャナで読み取り、鑑別報告



▲お薬手帳をスキャナし、鑑別報告書に反映させる

書に反映するシステムの構築をメーカーに依頼し、実運用に移すことができました。手入力に係る手間と時間を短縮することができています。

在庫管理

また、高額な薬剤を取り扱う機会も増加し、当院で採用している薬剤の中には1本100万円以上する薬剤もあります。高額な薬剤を対象に、



▲厳格な品質管理のもと自動発注、未使用品の入れ替えができる冷蔵庫

厳格な品質管理のもと遠隔による自動発注、未使用品の入れ替えができる冷蔵庫を含めたサービスを導入し、発注・入庫業務の簡素化と廃棄薬の削減に繋がっています。

このように機械化により業務の効率化を図りながら、薬剤部では服薬指導や医薬品の適正使用といった、人でないとできない仕事を充実させるよう取り組んでいます。

つつい ゆか

ハッスル研修医

感謝の気持ち



初期研修医 浅羽 直

最初の3ヶ月は消化器内科で研修させていただきました。仕事に慣れずミスの連発にも関わらず優しく教えてくださった先生方本当にありがとうございました。

少しずつ出来ることが増えていくのがとても楽しく、できないことがたくさんあることも嬉しいです。まだまだ頑張りたいと思います。そして、他職種の方々と協力して医療は行われていると実感したため、感謝の気持ちを忘れないように働きたいと思います。

先日久しぶりに釣りをしてきました。予想外の日差しに肌を焼かれ、皆様にご心配をおかけし、笑われてしまいました。次回はマグロを釣りに行きたいと思います。焼かないよう気をつけて行きますので、釣れるよう応援よろしくお願いします。

あさば すなお

主任新任研修



株式会社エイトドアの下田静香先生とリモートでつなぎ、7月13、14日の2回に分けて行いました。計37名の新任の主任が受講しました。

75周年記念 壁面フラッグとロゴ入り封筒がお目見え



75周年記念事業の一環として、院内各署に壁面フラッグがお目見えしています。正面玄関、連絡通路ほか、皆さんもぜひ探してみてください♪ また、封筒にもロゴマークが追加されています。

高知ハビリテーリングセンター

福祉車両をご寄贈いただきました

イオン株式会社様の「イオン社会福祉基金」から「日産キャラバ



ンチェアキャブ10人乗り」の車両を、高知ハビリテーリングセンターにご寄贈いただきました。

快適な乗り心地で、通所利用者の送迎で活躍しています。スタッフ一同、これからもより一層安全運転を心がけ、大切に使用させていただきます。ありがとうございます！



私の趣味

人生を豊かにするツール

秘書課 給仕 川内 祥子



物心ついた頃から、絵を描く事が大好きでした。熱しやすく冷めやすい性格の自分が、時間を忘れて続けられる。きっと大人になっても描いてるんだろうな、と子供ながらに漠然と想着ていました。

その予想通り、社会人になっても毎日のように描き続け、縁あって仕事を頂いたり、イベントの手伝いや個展を開いたり、人との繋がりや活動の場が広がっていききました。

しかし充実した日々も束の間、父

親の介護で絵を描く時間がなくなり、終わったと思ったらコロナの流行で人との交流が困難に。そこで苦手だったSNSで頑張っ絵をあげていこうと一念発起。

その結果、今また絵を通じて新たな繋がりが生まれ、様々な世代から刺激を受けて有意義な毎日を送っています。改めて、好きな事は何にでも挑戦させてくれる事を実感しました。

これからも絵を描く事で、もっともっと自分の世界を広げていきたいです。また仕事や個展もしたいし、ゆくゆくは自分でギャラリーを開いて色んな人と豊かな時間を共有できたら幸せだなあ。

かわうち しょうこ



ニューフェイス ①所属②出身地③最終出身校④趣味など



鳥家 鉄平

とや てっぺい ①心臓血管外科医師②岡山県倉敷市③岡山大学④最近健康のためロードバイクを始めました。



矢野慶太郎

初心者ですが、ツーリングなど趣味の方おられましたら是非声を掛けて下さい。

やの けいたろう ①消化器内科医師②高知市③昭和大学④自治医大で消化器内視鏡の勉強をして帰ってきました。

2021年6月の診療数 電子カルテ管理課

近森会グループ

外来患者数	17,606人
新入院患者数	1,072人
退院患者数	1,076人

近森病院（急性期）

平均在院日数	11.02日
地域医療支援病院紹介率	91.75%
地域医療支援病院逆紹介率	334.90%
救急車搬入件数	525件
うち入院件数	297件
手術件数	502件
うち手術室実施	312件
うち全身麻酔件数	225件

編集室通信

健康診断の結果が戻ってきた。やっぱり背が伸びている。ここ数年、測定ごとに毎回2~3mmずつ伸び、計1cmは伸びた。どこが伸びているのだろうか。あと、脂質異常症という文言が追加された。週1回通っていた運動をコロナ禍でやめていた。きっとこれが原因ではなかろうか。ストレッチ中心で激しいものではなかったが、定期的な運動が大切とおもいる今日この頃。

ざきち

訂正とお詫び

前月号「ひろっぱ」7面の田村先生の書籍紹介で本の写真がモノクロになっておりました。訂正しお詫びします。



41年間、”人”に恵まれた近森人生

1976年～2021年

診療支援部 医事課 高橋 光乃



▼左は23年前の1998年に発行された12月号、「ひろっぱ149号」の「人物ルポ」で取材された。「医療事務は底が深いから、まだまだ覚えることばかり」と。小さい写真はそろばんでレセプト計算中。右は近森会50周年記念誌の写真で最前列左から3人目が当時の吉岡医事課長、右端が高橋さん



診察が、西隣に予約専門の外来センターができたことで待ち時間が短縮されたと実感しますし、ソーシャルワーカーや薬剤師、管理栄養士等が各病棟に配属された事により、入院患者さんの不安解消に繋がったと思います。

設備面では撮影機器、手術室等の医療機器、近森救急車の充実が計れ、なんとヘリポートまで出来たではありませんか。やると決めたことに猪突猛進、「やればできる」を現場で体感しました。

リハビリテーション病院、オルソリハビリテーション病院、総合心療センター、附属看護学校等の多機能な施設も併設され、各部署から各病院へとチームの輪を広げる事となりました。院内託児所もあり福利厚生も充実しています。

人に恵まれた職業人人生

そんな目まぐるしい病院の変遷とともに、私が41年続けてこられたのは何と言っても”人”に恵まれたことです。喜怒哀楽ありましたが、患者さんの言葉に勇気づけられ、同僚の仲間に何度救ってもらったことか。子育てで退職したのち、復帰した際に「近森に戻ってから顔がイキイキしたね」と言った姪っ子の言葉は忘れられません。

昭和51年の入職以来、この様な医療環境の変化と、大勢の人に携われたこと有難く感謝しております。

たかはし みつ

病院の変化とともに歩んだ41年

入職当時は野戦病院のような近森で、救急患者さんがどんどん運び込まれていました。救急電話の対応や、空床の確認等を受付事務が担当したため、いつの間にか救急車の音でこの救急隊が判別がつくようになったことが少し自慢です。

走り抜けた近森人生でしたが、医

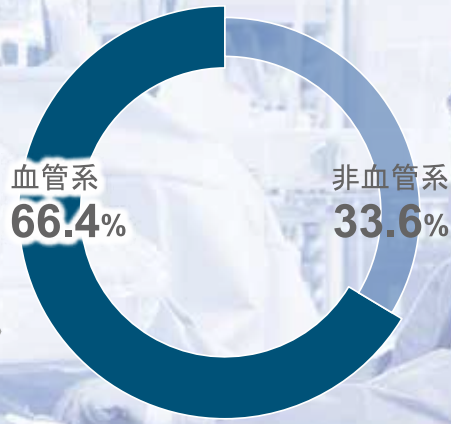
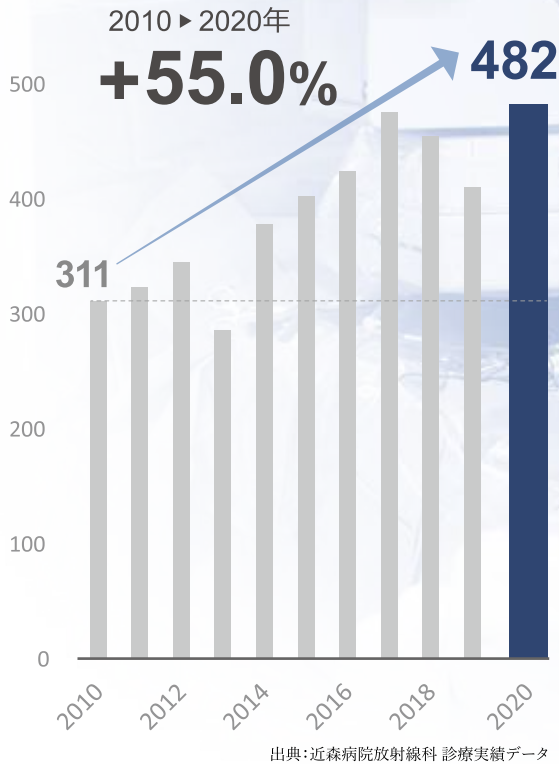
薬分業でお薬が院内から院外処方へ、さらには紙から電子カルテへ、地域医療連携室ができたことで、地域の病院とのキャッチボールがスムーズに、など、変化を挙げたらきりがありません。業務負担も随分軽減されました。

患者さんの満足度に関しても、予約の有無関係なく本館で行っていた



放射線科の診療実績

総手術件数の推移



手術件数の内訳(2020年実績)

血管系(320件)		非血管系(162件)	
透析シャントIVR	112	PTGBD	50
CVポート	64	膿瘍ドレナージ(US下)	34
TACE(HCC)	47	膿瘍ドレナージ(CT下)	20
外傷・止血TAE	30	PTCD	18
大動脈ステントグラフト	14	CT下生検	12
その他TAE(術前など)	11	胆管ステント	9
パパペリン動注療法(NOMI)	8	US下生検	6
降炎動注療法	7	胆道その他	2
B-RTO	5	その他	11
末梢血管系IVR	2		
PSE	1		
その他	19		

経皮的シャント拡張術・血栓除去術(透析シャントIVR)



中心静脈注射用植込型カテーテル設置(CVポート)

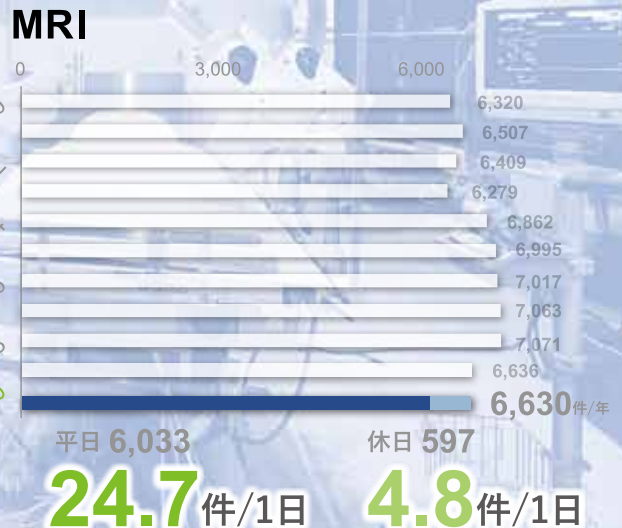
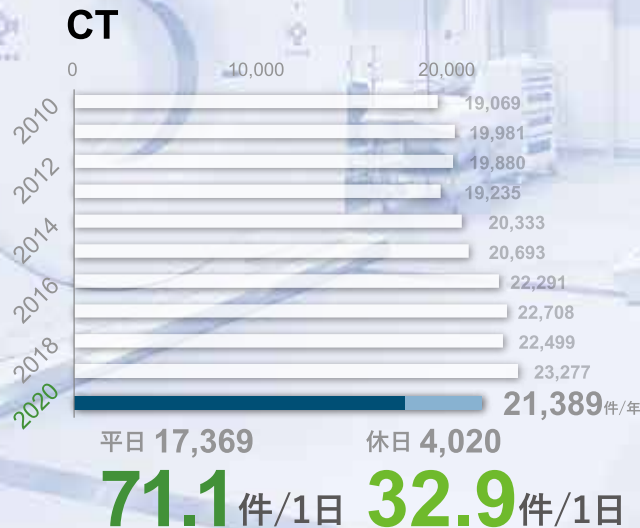


経皮経肝胆囊ドレナージ術(PTGBD)



検査件数の推移

出典:近森病院放射線科 診療実績データ



出典:日本IVR学会症例報告数